

関係者各位

2025 年度 競技会運営方針について

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

JLA は「命を守るスポーツ」の魅力を広げ「水辺の事故ゼロ」に繋げるためのライフセービング競技会を展開しています。そのなかで競技人口の増加と、中長期的なライフセーバーの育成を進めるべく、将来の発展を見据えた競技会のあり方について、これまでの流れを汲んだ上で踏み込んだ変更を含めてご提示します。

敬具

記

※昨年度からの変更点には、**黄色のハイライト**を付しています。

ライフセービングスポーツの役割

ライフセービングスポーツの役割を引き続き、以下の3点とする。

- ライフセーバーに求められる救助に必要な技術や体力の向上を目的とすること。
- 誰でもライフセービングを始められる活動への入口と位置付けること。
- スポーツの魅力を活用してライフセービングを広く社会へ認知させること。

アンチ・ドーピング講座の受講について

JLA は公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構の加盟団体であり、ライフセービング競技会はドーピング検査の対象である。クリーンでフェアなスポーツを実現するため、すべての競技者が正しいアンチ・ドーピングの知識を身につけるべきである。

アンチ・ドーピング委員会が不正や違反行為を未然に防ぐための講座を開催するため、競技会参加前に受講すること。

各競技会の方針について

【全日本選手権（予選会）】

- 予選会は、地方ブロックごとの自主開催とする。
- 予選会の名称には、地方ブロックの名称を反映させる。
- 予選会は、地方ブロックを組織する都道府県協会の主催及び運営を基本とする。運営に支障をきたす場合は、JLA より人的支援等を検討する（予定）。
- 本戦の約 2 週間前までに本戦出場選手名簿を JLA に提出する（予定）。選出の方法は、地方ブロック

または競技会主催者に委ねる。

- 予選会は、JLA の定める A 種認定競技会もしくはそれと同等での実施が望ましい。ただし、体制が整わない場合には公平な選出が実施できればよいものとし、予選会の形にはこだわらない。

【全日本選手権（本戦）】

- 国内最高峰の競技会と位置づけ、予選会で厳選された選手だけが出場できるものとする。
- 観客など競技会を観る人たちにとって、魅力のある運営を仕掛けていく。
- 本戦は、JLA が主催する。
- 国外からの競技者の受け入れはしない。

【全日本プール選手権】

- ILS 承認を引き続き取得し、世界記録の申請が認められる競技会とする。
- 国際化を進め、国外からの競技者の参加を受け入れる。ただし、全日本選手権の意味合いもあるため、国外競技者が入賞をした場合は、国内競技者の順位を繰り上げるものとする（国外競技者が上位 3 位に入賞をした場合は、メダル授与の対象とする）。
- 一部の種目において、タイム決勝ではなく予選と決勝を行う。

【全日本種目別選手権】

- 国際化を進め、国外からの競技者の参加を受け入れる。また、国外競技者が入賞をした場合は、国内競技者の順位の繰り上げはしない（参加費は国外競技者向けの別枠を設定する）。
- チーム種目の導入を検討する。
- 将来的にアジア地区における国際競技会を目指す。
- 国外競技者の受け入れ条件を設定する予定（世界選手権への出場経験がある国かどうか、競技者本人がライフセービングスポーツの競技会への出場経験があるかどうか、など）。

【SERC 選手権】

- 世界選手権の運用にならって、引き続き SERC 種目単独の開催とする。
- 世界選手権に通用する競技者および採点員（テクニカルオフィシャル）の育成をする。
- SERC のシナリオ作成および競技運営ができる人材育成を継続する。
- 2025 年度大会にあっては、1 クラブから「複数チーム」の参加を受け入れる。
- 実施カテゴリとして、これまでの「全日本」「全日本学生」のほか、「ユース（U18）」の開催を検討している。導入をする場合は、「ユース（U18）」の年間総合順位の対象競技に含める。

【全日本 IRB 競技選手権】

- 引き続き IRB 種目単独の開催とする。
- IRB 競技を通じて、IRB を用いたレスキューの知識と技術の向上ならびに普及を図る。
- 世界選手権に通用する競技者およびテクニカルオフィシャルの育成をする。
- IRB 競技会の運営ができる人材育成をする。

【ジュニア・ユース・マスターズ選手権】

- ジュニア・ユース・マスターズ選手権は、以下の3つに分けて進行する（ただし、競技日程や会場の都合により、同日併催となる場合がある）。
 - ジュニアシリーズ
 - ユースシリーズ
 - マスターズシリーズ
- 各カテゴリの実施方針は以下の通りとする。
 - ジュニアシリーズ
 - ◇ **ライフセービングの入り口、ライフセーバーシップの醸成**
 - ◇ 「アンダー制」を採用する。以下の3区分とする。年齢の基準は、その競技会を実施する「年度末に当たる2026年4月1日時点」とする。
 - ① U12 12歳以下
 - ② U10 10歳以下
 - ③ U8 8歳以下
 - ◇ 個人種目においては、**区分を超えての出場は認めない（昨年度まで可能としていた、自身の区分より「一つ上の区分」への出場はできないものとする）。**
 - ◇ チーム種目においては、**自身の区分より「一つ上の区分」への出場を可能とする（U8の選手はU12区分の種目には参加できない。また、U12の選手はユースシリーズには参加できない）。**
 - ◇ 個人種目・チーム種目共に、**男女を分けてエントリーおよびレースを実施する（原則としてチーム種目の男子種目において、女子の混合を認めない。ただし男子種目に限り、男子の人数が不足して出場が困難な場合のみ、女子競技者を含めてもよい※）。**
※あくまでも「男子種目」であるため、その種目の構成メンバーの過半数が男子であること。
 - ユースシリーズ
 - ◇ **自らの意思でやりたくなるスポーツへ、全日本・世界選手権への登竜門、真剣勝負での勝敗を通じた育成、競技力向上に向けた知識の獲得、ライフセーバーシップの体得**
 - ◇ 「アンダー制」を採用する。以下の2区分とする。年齢の基準は、その競技会を実施する「年度末に当たる2026年4月1日時点」とする。
 - ① U18 18歳以下
 - ② U15 15歳以下
 - ◇ **区分を超えての出場は認めない（原則として、昨年度まで可能としていた、自身の区分より「一つ上の区分」への出場はできないものとする）。ただし、「U15」の種目設定がなく、「U18」にしかない種目に限り、U15の競技者の出場を認める（サーフスキーレース、など）。**
 - ◇ **実施種目を拡大する（予定）、以下は現状の検討案。**
 - ① ニッパーボードレース（U15） 継続する
 - ② ボードレース（U15） 新設する
 - ③ ユースオーシャンマン/ウーマン 区分設定なし・表彰あり・総合得点対象外
※サーフスキーの設定「なし」
 - ④ オーシャンマン/ウーマン（U18） 新設する ※サーフスキーの設定「あり」

⑤ オーシャンマンリレー/ウーマンリレー (U18) 新設する

- ◇ 個人種目・チーム種目共に、男女を分けてエントリーおよびレースを実施する（チーム種目の男子種目において、女子の混合を認めない）。

➤ マスターズシリーズ

◇ 生涯スポーツとしての楽しみ、自己・歴代記録との戦い

- ◇ 年齢区分は、23-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50 歳以上の 4 区分とする。年齢の基準は、その競技会を実施する「年末に当たる 12 月 31 日時点」とする。
- ◇ チーム種目に限り、「該当種目に出場をするチームメンバーの合計年齢」で考えるものとする。2 区分とし、その分け方の考え方は、30 歳を基準にその種目の必要人数を乗じたものとする。また、40 歳を区切りとした区分の導入を検討している。

※例：4 人種目の場合→30 歳×4 人=120 歳が基準

- ① 119 歳以下
- ② 120 歳以上
- ③ 160 歳以上 (40 歳×4 人=160 歳)

- ◇ 個人種目では、男女を分けてエントリーおよびレースを実施する。
- ◇ チーム種目では、男女混合でのチーム編成とする。ただし、1 人の競技者が同一種目の複数チームでの出場は認めない（例：1 人の競技者が同一種目の 119 歳以下区分と 120 歳以上区分の両方に出場することはできない）。
- ◇ 各種目において、エントリー数が少ない場合は、他の年齢区分と一緒にレースを行う場合がある。なお、ビーチフラッグスに限り、最少催行人数を設定する（予定）。

- 競技会単体の総合順位は、各競技会の各カテゴリにおいて算出する（ユースは「U15」と「U18」の 2 区分とする）。ジュニア・ユース・マスターズの全てのカテゴリを合算した「クラブ総合順位」は実施しない。

シリーズ化について

- プール競技、オーシャン競技、SERC の 3 つの競技を基本として、カテゴリ別のシーズン総合順位をつけ表彰する。
- 全日本種目別選手権は、シリーズ化の対象外とする。国外選手やライフセービングスポーツに興味のある人が参加のしやすい、開かれた競技会とする。
- 全日本 IRB 競技選手権は、シリーズ化の対象外とする。

各競技会における対象区分と資格要件について

2024 年度に引き続き、基本的には変更なし。なお、オーシャン競技会において資格不要の大会の場合は、大会参加規程に一定の泳力条件を設ける。

競技会名称	対象区分	資格要件
全日本選手権	12 歳以上 ※中学生条件付き	認定ライフセーバー (高校生：WS&BLS) (中学生：WS)
全日本プール選手権※		
全日本 SERC 選手権		
全日本学生選手権	大学生、短大生、大学院生、 専門学校生のみ	認定ライフセーバー
全日本学生プール選手権※		
全日本学生 SERC 選手権		
全日本 IRB 選手権	ドライバー 18 歳以上 クルーパーソン 16 歳以上 ペイシエント 15 歳以上	ドライバー：IRB ドライバー資格 クルーパーソン：IRB クルー資格 ペイシエント：認定ライフセーバー
ジュニアシリーズ	小学生	なし（推奨）
ユースシリーズ	中学生・高校生	
マスターズシリーズ	23 歳以上	
種目別選手権	12 歳以上 ※中学生条件付き	なし（推奨） ※泳力条件を設定する
オーシャンサーフチャレンジ	15 歳以上	なし（推奨） ※泳力条件を設定する
認定競技会	競技会によって	主催者判断
その他の競技会		

※全日本プール選手権と全日本学生プール選手権は標準タイム突破者とする

中学生の全日本選手権および種目別選手権への参加について

国内において中学生が参加できる競技会はまだ少ない。それを補うために特別な条件のもとに全日本および種目別への参加を認めることにより、才能ある中学生に挑戦の場を増やし、その成長のための環境を整えることを実施していく。

しかしながら大人に混じって競技に参加することは、体格に勝る大人とのコンタクトによる怪我や様々なリスクが考えられる。そのため中学生のだれもが気軽に参加すべきではなく、サーフライフセービングインストラクター資格を所持するユース指導責任者（以下、ユース責任者）、その保護者、そして本人が、本人の力量を見極めた上で覚悟を持って参加するべきである。

さらには体格差、技術、体力、怪我の可能性などに少しでも不安がある場合、勇気を持って参加をとりやめるべきである。

上記の考えのもと、以下の条件において全日本選手権大会およびサーフカーニバル（全日本種目別選手権大会）への参加を認めるものとする。

【参加条件】

- ユース責任者と保護者は、参加する全てのレースに立ち会えること。
- 大会参加規程「1.参加資格」の全ての条件を満たしていること。また、ユース責任者、保護者および競技者本人が、参加資格を満たしているかどうかを、必ず3者揃って確認をすること。
- 中学生が参加できる種目は当面、体への負担の大きい「サーフスキーを使用する種目」と、身体接触の多い「ビーチフラッグス」を除く。
- 本人の参加が、競技会進行を妨げないこと。
- 本人が、ユース選手権大会等の競技会における、U15の部で入賞を目指せる実力を持つこと。
- 競技会主催者には、主観的な判断で中学生の参加を止める権限があり、その判断に対する抗議は受け付けない。また、いかなる理由においてもエントリー費の返却はしない。

【参加方法】

- 競技会会場で立ち会うユース責任者と保護者が、参加する本人の体格・技術・体力・精神面および海のコンディションをレース毎に確認し、話し合い、参加の是非の判断を自身の責任において行う。
- その際ユース責任者は、ライフセーバーとして、またサーフライフセービング・インストラクター資格保持者として、慎重な判断を行う。
- ユース責任者と保護者の両名が免責条項を含む特別同意書へサインし、両名同席の上でこれを競技会実行委員会へ提出すること。(詳細は各競技会要項を確認)

以上

【お問い合わせ】

公益財団法人日本ライフセービング協会

事務局 担当：水川

電話:03-6381-7597

メール：mizukawa@jla.gr.jp



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会